

〈中部地区〉

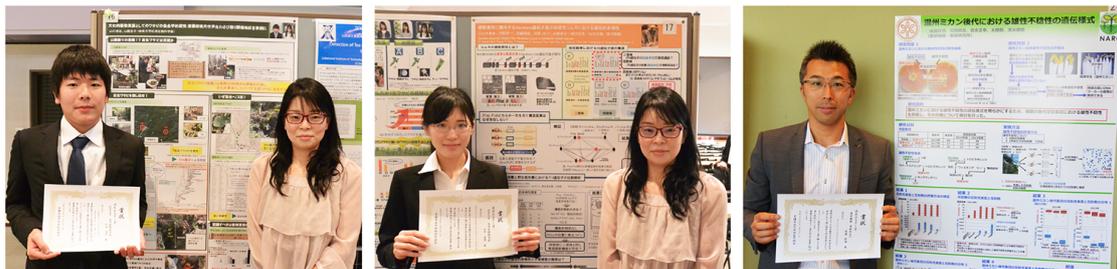
第23回育種学会中部地区談話会が、2015年11月21日（土）に愛知県農業総合試験場にて開催された。特別講演1題、一般発表30題に加え、園芸施設見学も実施され、中部地域5県の大学・研究機関からの69名の参加者間で活発な質疑・意見が交わされた。また一般講演については、参加者全員による投票で優秀ポスター賞を選定し、3題に授与するなど、互いの成果をたたえ合いつつ盛況の内に幕を閉じた。

発表課題は以下の通りである。

特別講演：愛知の農業を技術で支える農業総合試験場の試験研究。中嶋 泰則（岐阜県農業技術研究所）

一般発表：①いもち病圃場抵抗性遺伝子の集積効果。☆鈴木太郎<sup>1</sup>・中村充<sup>1</sup>・池田彰弘<sup>1</sup>（1.愛知県農業総合試験場山間農業研究所），②日持ち性が極めて高いスプレーカーネーション新品種‘カーネ愛農1号’の開発。☆松野純子<sup>1</sup>・堀田真紀子<sup>1</sup>・山口博康<sup>2</sup>・久米貴志<sup>3</sup>・服部裕美<sup>4</sup>・山口徳之<sup>1</sup>（1.愛知県農総試・2.農研機構花き研・3.愛知県政策企画局・4.愛知県海部農林水産事務所），③ポリミキサ属菌の室内での安定的な感染方法の確立と感染抵抗性を持つ小麦品種の探索。○河原聡美<sup>1</sup>・伊藤幸司<sup>1</sup>・加藤満<sup>1</sup>・坂紀邦<sup>1</sup>・加藤周平<sup>1</sup>・前島秀和<sup>2</sup>（1.愛知県農業総合試験場・2.長野県農業試験場），④野生イネイントログレッション系統を用いた高温登熟性に関する染色体領域の探索。○濱頭葵<sup>1</sup>・伊藤晃<sup>1,2</sup>・高師知紀<sup>3</sup>・北野英巳<sup>4</sup>・加藤満<sup>1</sup>・杉浦和彦<sup>1</sup>・井手康人<sup>1</sup>（1.愛知県農業総合試験場作物研究部，2.現：愛知県農業総合試験場企画普及部，3.株式会社ステイグリーン，4.名古屋大学生物機能開発利用研究センター）⑤Bulked segregant analysis と次世代シーケンサーを利用した変異体原因遺伝子マッピングの改良。☆春原英彦・西内俊策・土井一行（名大院生命農学），⑥イネNested Association Mapping 集団の形質評価のためのICT 技術の利用。☆島津瑛久<sup>1</sup>・森潤一<sup>1</sup>・春原英彦<sup>2</sup>・西内俊策<sup>2</sup>・土井一行<sup>2</sup>（1.名大農，2.名大院生命農学），⑦イネにおけるNested Association Mapping 法の適用。☆森潤一<sup>1</sup>・島津瑛久<sup>1</sup>・春原英彦<sup>2</sup>・西内俊策<sup>2</sup>・土井一行<sup>2</sup>（1.名大農，2.名大院生命農学），⑧NERICA を用いた葉形質を制御するQTLの探索。☆縣 歩美<sup>1</sup>・保浦徳昇<sup>3</sup>・太田自由<sup>1</sup>・土井一行<sup>1</sup>・犬飼義明<sup>4</sup>・榎原大悟<sup>4</sup>・北野英巳<sup>3</sup>（1.名大院生命農学，2.名大農，3.名大生物機能開発利用研究センター，4.名大農国センター），⑨ソルガムF<sub>1</sub>育種の基盤となる高バイオマス性の遺伝学的解明。☆山口 未来<sup>1</sup>・中村（荒木） 聡子<sup>2</sup>・藤井 昭裕<sup>2</sup>・岡村 進之介<sup>3</sup>・篠原（大前） 梢<sup>2</sup>・伊藤 祐介<sup>2</sup>・北野 英巳<sup>2</sup>・松岡 信<sup>2</sup>・春日 重光<sup>4</sup>・佐塚 隆志<sup>2</sup>（1名古屋大学生命農学研究科，2名大生物機能開発利用研究センター，3名古屋大学農学部，4信大農学部附属アルプス圏フィールド科学教育研究センター），⑩普通ソバ（*Fagopyrum esculentum*）における高ルチン含量優良系統の育成（2）。○馬場真優子<sup>1</sup>・谷口岳志<sup>2</sup>・丸山秀幸<sup>2</sup>・南 峰夫<sup>1</sup>・松島憲一<sup>1</sup>・根本和洋<sup>1</sup>・塩川正則<sup>2</sup>（1.信州大学院農学研究科，2.長野県野菜花き試験場），⑪日本在来カブ品種（*Brassica rapa* ssp. *rapa*）におけるSハプロタイプの遺伝的多様性および特性。☆野村朋秀・根本和洋・朴 永俊・南 峰夫・松島憲一（信州大学院農学研究科），⑫キノア（*Chenopodium quinoa*）における新規GBSS遺伝子の同定と発現解析。☆木下純一<sup>1</sup>・根本和洋<sup>1</sup>・朴 永俊<sup>1</sup>・南峰夫<sup>1</sup>・松島憲一<sup>1</sup>・西川智太郎<sup>2</sup>（1.信州大学大学院農学研究科，2.農業生物資源研究所），⑬カフェイン合成における*Camellia*属植物のシークエンスおよびDartスペクトルの比較。☆小川桜子<sup>1</sup>・押川達夫<sup>2</sup>・芳野恭士<sup>2</sup>・荻野暁子<sup>3</sup>・古川一実<sup>2</sup>（1沼津工業高等専門学校専攻科，2沼津工業高等専門学校，3農研機構野菜茶業研究所（枕崎）），⑭ボンバードメント法を用いたチャ（茶樹）の形質転換プロセスにおける培養特性。☆小泉 舞衣<sup>1</sup>・大嶋 雅夫<sup>2</sup>・古川 一実<sup>1</sup>・田部井 豊<sup>2</sup>（1沼津工業高等専門学校物質工学科，2（独）

農研機構 農業生物資源研究所), ⑮ *TCSI* 配列比較を目的とした *Camellia* 属植物の染色体FISH. ☆杉山昇平・☆太田智也・古川一実(沼津工業高等専門学校物質工学科), ⑯ 文化的植物資源としてのワサビの保全学的研究—京都府南丹市芦生わさび祭り開催地区を事例に. ☆山口博志・山根京子(岐大応生), ⑰ 硬軟質性に関与する *Hardness* 遺伝子座の四倍性コムギにおける遺伝的多様性. ☆山木美幸<sup>1</sup>・丹野研一<sup>2</sup>・加藤輝雄<sup>1</sup>・河原-太八<sup>3</sup>・山根京子<sup>1</sup>(1岐大応生、2山口大農、3京大院農), ⑱ 岐阜大学オープンキャンパスにおけるワサビの嗜好および食味調査 ~もってワサビを食べようプロジェクト2015~. ☆道木菜那・☆村川未果・山根京子(岐大応生), ⑲ 日本晴×豊コシヒカリの分離集団における *Hd16* 遺伝子の効果について. ☆大槻潤矢・富田因則(静岡大学グリーン科学技術研究所), ⑳ 国内トマト  $F_1$  品種群を用いたゲノミックセレクションの有効性評価. ○山本英司・松永啓・布目司・山口博隆・宮武宏治・大山暁男・福岡浩之(農研機構野菜茶研), ㉑ 温州ミカン後代における雄性不稔性の遺伝様式. ☆後藤新悟・吉岡照高・喜多正幸・太田智・清水徳朗(農研機構・果樹研究所), ㉒ 表計算ソフトウェアを利用した遺伝子型情報評価システム 'GUGS'. ○清水徳朗・後藤新悟・野中圭介(農研機構・果樹研究所), ㉓ オオムギ野生種の雌性S決定因子およびS遺伝子座領域の解析. ☆浅原 亮介<sup>1</sup>・村上愛<sup>2</sup>・井上彩音<sup>2</sup>・掛田克行<sup>1</sup>(1. 三重大院生物資源, 2. 三重大院生物資源), ㉔ ダイコン  $F_3$  系統を用いたグルコエルシン含量のQTL解析. ○吹野伸子<sup>1</sup>・北柴大泰<sup>2</sup>・柿崎智博<sup>1</sup>・石田正彦<sup>1</sup>・西尾剛<sup>2</sup>・小原隆由<sup>1</sup>(1農研機構野菜茶研, 2東北大院農学研究科), ㉕ イネの胚盤形成異常変異体の表現型の解析. ☆舟橋成仁・石綿愛子・佐藤豊(名古屋大学大学院 生命農学研究科), ㉖ 嫌気条件下におけるダイズ品種タチナガハと伊豫大豆の根系発達の品種間差の解析. ☆藤本周平<sup>1</sup>・高橋宏和<sup>1</sup>・望月俊宏<sup>2</sup>・高橋良二<sup>3</sup>・中園幹生<sup>1</sup>(1. 名大院農, 2. 九大院農, 3. 作物研), ㉗ インドネシア熱帯低湿地適応品種作出に向けた鉄過剰障害に関するQTL解析. ☆平川嵩久<sup>1</sup>・高橋宏和<sup>1</sup>・西内俊策<sup>1</sup>・春原英彦<sup>1</sup>・土井一行<sup>1</sup>・犬飼義明<sup>2</sup>・中園幹生<sup>1</sup>(1. 名古屋大学院生命農学研究科 2. 名古屋大学農学国際教育協力研究センター), ㉘ ニカラグアテオシントの酸素漏出バリア形成に関与する染色体領域の特定. ☆渡邊宏太郎<sup>1</sup>・西内俊策<sup>1</sup>・佐藤彩織<sup>1</sup>・大森史恵<sup>2</sup>・高橋秀和<sup>3</sup>・間野吉郎<sup>2</sup>・中園幹生<sup>1</sup>(1. 名古屋大学院生命農学研究科、2. 農研機構畜産草地研究所、3. 秋田県立大学生物資源科学部), ㉙ ダイズにおける二次通气組織形成の分子機構の解明. ☆延里充弘<sup>1</sup>・高橋宏和<sup>2</sup>・平賀 勲<sup>3</sup>・島村 聡<sup>4</sup>・中園幹生<sup>2</sup>(1. 名大農, 2. 名大院生命農 3. 農研機構作物研, 4. 農研機構東北農研), ㉚ A Histone H3 Lysine-27 Methyltransferase Complex is involved in lateral root development in rice. ☆Nonawin B. Lucob<sup>1</sup>, Misuzu Takahashi-Nosaka<sup>2</sup>, Akihide Shibata<sup>1</sup>, Hiroaki Inahashi<sup>2</sup>, Akira Yamauchi<sup>1</sup> and Yoshiaki Inukai<sup>2</sup>(1. Graduate School of Bioagricultural Sciences, Nagoya University, 2. International Cooperation Center for Agricultural Education, Nagoya University)



第23回中部地区談話会の参加者（上段）と優秀発表賞を受賞された皆さん（下段：左から講演番号⑩，⑪，⑫）